

## 船舶事故調査報告書

平成27年11月19日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 庄司邦昭（部会長）  
 委員 小須田 敏  
 委員 根本美奈

事故種類	火災
発生日時	平成27年5月6日 09時30分ごろ
発生場所	山口県下松市笠戸島南東方沖 火振岬灯台から真方位127° 2.3海里付近 （概位 北緯33° 54.40′ 東経131° 51.30′）
事故調査の経過	平成27年6月22日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 住福丸、4.85トン YG3-38752（漁船登録番号）、個人所有 11.19m (Lr) × 2.33m × 0.83m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数15、昭和51年3月30日
乗組員等に関する情報	船長 男性 79歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年4月4日 免許証交付日 平成26年5月9日 （平成32年9月29日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	機関室、操舵室及び上甲板が焼損
事故の経過	<p>本船は、船長が、1人で乗り組み、笠戸島南東方沖でごち網の揚網作業中、同網の引揚げロープを巻上げ用ローラに取り付けようとして船首方を振り向いたところ、機関室船尾側出入口引き戸の隙間から黒煙が出ていた。</p> <p>本船は、船長が、黒煙の出ていなかった機関室船首側の出入口から機関室内の様子を見ようと同出入口の引き戸を開けたが、機関室内に黒煙が充満して様子が分からなかったため、機関室船尾側の出入口の引き戸を開けたところ、炎が噴出し、主機が停止した。</p> <p>船長は、バケツで水を掛けて消火しようと思ったが、付近を航行していたプレジャーボートが来援し、避難するように言われたので、同プレジャーボートに移乗した。</p> <p>本船は、プレジャーボートからの連絡で駆けつけた巡視艇によって消火されたのち、僚船にえい航されて帰港し、その後解撤処分され</p>

	<p>た。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図、写真1 本船の焼損状況 参照)</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 東、風力 1、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏</p>
その他の事項	<p>本船は、本事故当時、網がプロペラに絡まないように約1ノットの対地速力で北方に向けて航行していた。</p> <p>船長は、出港前に機関室内の点検を行っていなかったが、本事故の3、4日前に機関室内の点検を行った際、燃料油（A重油）の漏れや異臭等を認めていなかった。</p> <p>本船は、進水時以来、電気配線の交換が行われていなかった。</p>
<b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>なし</p> <p>本船は、笠戸島南東方沖で揚網作業中、機関室から出火したものと考えられるが、出火に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、本船が、笠戸島南東方沖で揚網作業中、機関室から出火したことにより発生したものと考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出港前に主機を始動する際、機関室内の点検を行うこと。</li> </ul>

付図1 事故発生場所概略図

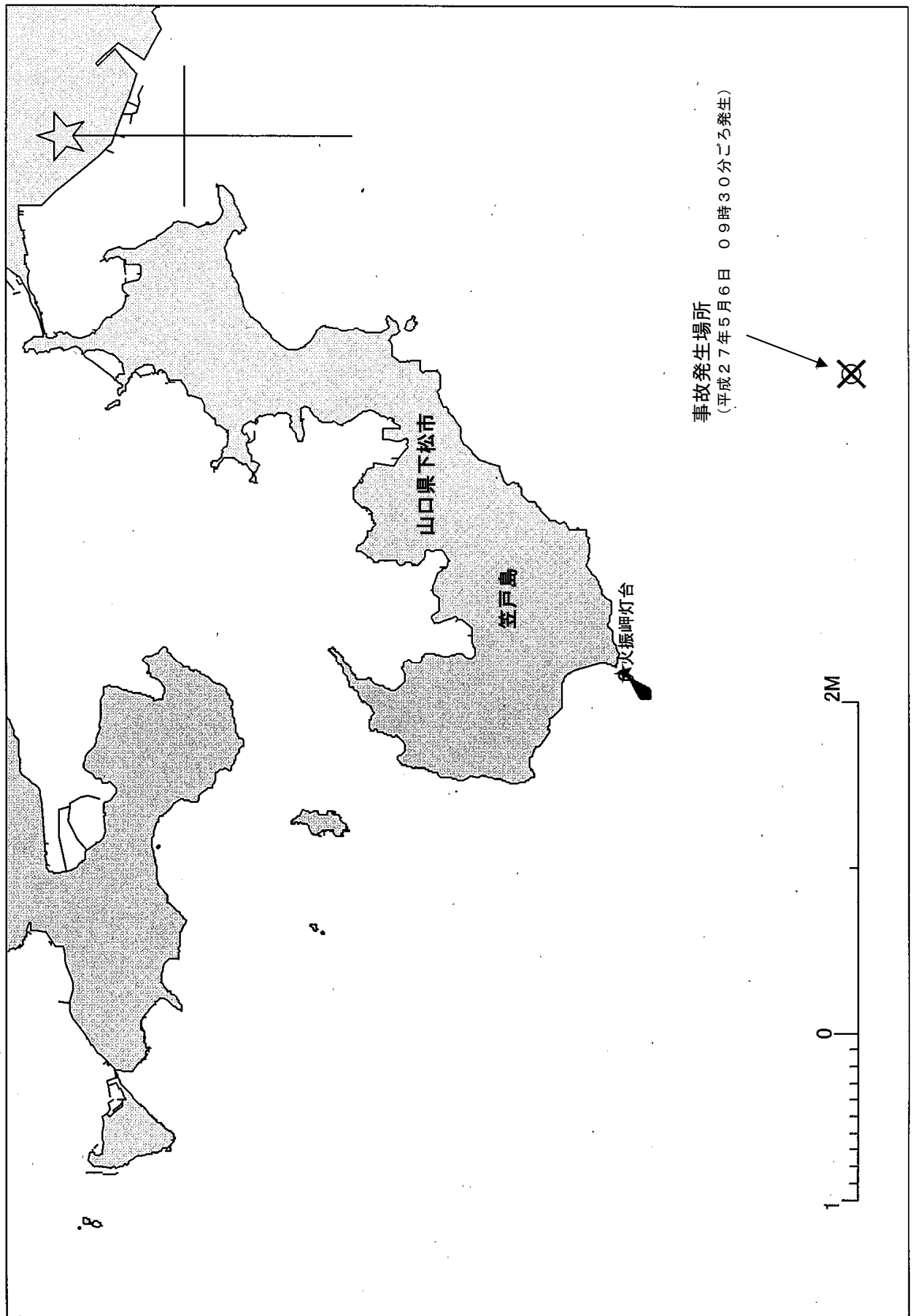


写真1 本船の焼損状況

